

赤の他人村の考察

(街づくりから見る、年代間の溝について)

暮らしは自分たちで作った時代の思考

里山の維持など、集団で暮らしを作ることが
とても大切に重要だった



Photo by takahiro taguchi on Unsplash

時間がかかり、長く続けること

暮らし方の縦割り

暮らしは自分で買う時代の思考

街は経済が作るもの、暮らしを買い
できた時間の使い方を考える



Photo by Lu on Unsplash

暮らしは時間をかけず、趣味にかける

赤の他人村の考察

今の若い世代に多い、他人に無関心なところは、僕は「暮らし方の変化」に要因があると考えます。
簡単ですが、暮らしの変化を考えました。

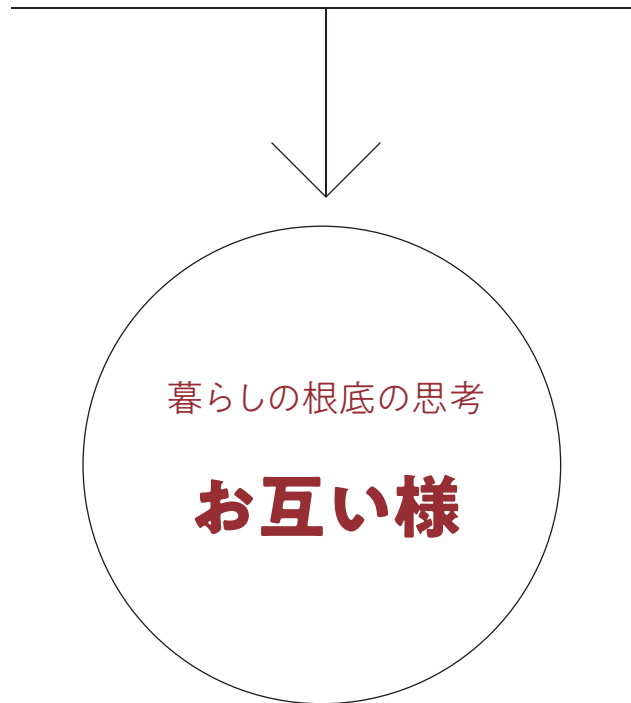
団塊世代あたり

団塊ジュニア世代以下

物	物がない・大切	物がある・使い捨て
人・関わり	(ネットが無いので、世間話から) 隣近所からつながりを広く持つ	(不要なので)近所の交流は持たない が、ネットでの交流は普通
暮らし・消費	自分(仲間)でできる物をつくる	ほぼ、買う
時間	自然が相手のことは 仕方がない	経済に追われ ない
家族	大家族もちよくちよく	暮らしの利便性に合わせ 核家族化

暮らしは自分たちで作った時代の思考

価値の基準は集団合意



暮らし方の縦割り

暮らしは自分で買う時代の思考

価値の基準は数字



特徴

団結力
助け合い
よそ者を警戒する

電気がなくても暮らせる
ITに弱い

暮らし方の縦割り

特徴

自己への承認
趣味でのつながり
距離のはかり方が不慣れ

暮らしに電気は必要
ITに強い

暮らしの根底の思考

お互い様

暮らしの根底の思考

個人プレー

暮らし方・価値観の交差点

暮らしの根底の思考

お互い様

暮らしの根底の思考

個人プレー

暮らし方・価値観の交差点

**高い
個人技術**

承認し合える仲間